

第676号 展示と催し物案内

東京国立博物館 ニュース

2006
4・5
月号

平成18年度の特別展・国宝室の展示予定 ●2

天台宗開宗1200年記念 特別展 **最澄と天台の国宝** ●4

特別展 プライスコレクション 若冲と江戸絵画展 ●5

重文 風神雷神図屏風 ●6

講演会のお知らせ ●7

親と子のギャラリー 博物館ってどんなところ？ たてもの編 本館 ●7

平常展見どころ案内 2006年4月・5月

国宝 伝藤原光能像 ●8

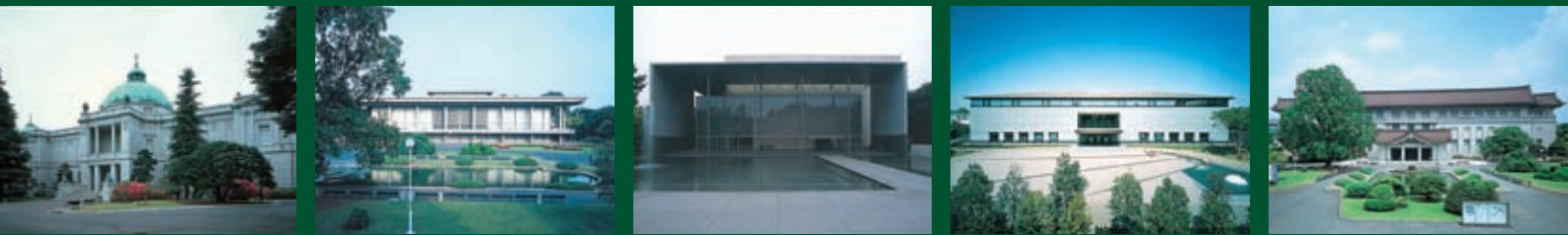
特集陳列「舞楽面と行道面」／特集陳列「上野公園の130年」／
見返り美人図／重文 男山蒔絵硯箱 など ●9-11

ようこそ！博物館の舞台裏へ 国際シンポジウムの裏側 ●12

INFORMATION ●14

TOPICS ●15

2006年4月・5月の展示・催し物 ●16



平成18年度の東京国立博物館

平成十八年度を迎えて

東京国立博物館長

今年度から新しい中期計画が始まりました。この計画においては、平常展を中核に位置付け、特別展等については国内外の博物館と連携し、我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行うこととされました。国立博物館全体で十三万件に及ぶ収蔵品・寄託品を活用し、魅力ある特集陳列を行うなど、平常展を一層充実していきます。

また、事務事業の重点化・合理化・効率化に併せて、自己収入目標額（ノルマ）が五割増になり、国からの運営費交付金が大幅に減額されました。多角的な事業展開により収入確保に努めますが、本年十月一日から平常展観覧料金を改定せざるをえないこととなりました（本誌14頁参照）。歴史・伝統文化の発信拠点として、館員一同全力を尽くしてまいりますので、皆様方のご理解・ご協力を切に願います。

なお、独立行政法人国立博物館は、独立行政法人文化財研究所と統合することとされ、平成十九年度四月からの統合に向けて準備を進めております。

特別展の予定

2006年3月28日（火）～5月7日（日） 平成館
天台宗開宗1200年記念 特別展 最澄と天台の国宝

2007年1月2日（火）～2月25日（日） 平成館
中国国家博物館展（仮称）

2006年7月4日（火）～8月27日（日） 平成館
ブライスコレクション 若冲と江戸絵画展

2007年1月23日（火）～3月18日（日） 平成館
ニュージーランド国立博物館テ・パパ・トガレワ名品展
マーオリ ―楽園の神々―（仮称）

2006年10月3日（火）～12月3日（日） 平成館
仏像 一木にこめられた祈り

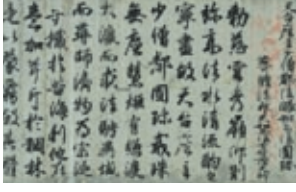
海外で開催される特別展（東京国立博物館主催の展覧会）

2006年3月4日（土）～5月14日（日）
ニュージーランド国立博物館テ・パパ・トガレワ
Splendours of Japan
―Treasures of the Tokyo National Museum
日本文化の輝き―東京国立博物館名宝展

2006年5月16日（火）～10月15日（日）
ボワンタカリエール モントリオール考古歴史博物館
EXPO JAPON 日本展

2006年3月13日（月）～4月23日（日）
上海博物館
中日書法珍品展

本館2室 国宝室 展示予定

2006年 4月11日(火)～5月7日(日) ●伝藤原光能像 鎌倉時代・13世紀 京都・神護寺蔵 	9月26日(火)～10月22日(日) ●山越阿弥陀図 鎌倉時代・13世紀 京都・禅林寺蔵 
5月9日(火)～6月4日(日) ●雪景山水図 梁楷筆 南宋時代・13世紀 ◎出山釈迦図 梁楷筆 南宋時代・13世紀 ◎雪景山水図 伝梁楷筆 南宋時代・13世紀 	10月24日(火)～11月19日(日) ●観楓図屏風 狩野秀頼筆 室町～安土桃山時代・16世紀 
6月6日(火)～7月2日(日) ●普賢菩薩像 平安時代・12世紀 鳥取・豊乗寺蔵 	11月21日(火)～12月6日(水)、 12月19日(火)～12月27日(水) ●法華経方便品(竹生島経) 平安時代・11世紀 
7月4日(火)～7月30日(日) ●和歌体十種 平安時代・11世紀 	2007年 1月2日(火)～1月28日(日) ●松林図屏風 長谷川等伯筆 安土桃山時代・16世紀 
8月1日(火)～8月27日(日) ●虚空蔵菩薩像 平安時代・12世紀 	1月30日(火)～2月25日(日) ●円珍贈法印大和尚位並 智証大師諡号勅書 小野道風筆 平安時代・延長5年(927) 
8月29日(火)～9月24日(日) ●一遍上人伝絵巻 巻第七 法眼円伊筆 鎌倉時代・正安元年(1299) 	2月27日(火)～3月25日(日) ●風信帖 空海筆 平安時代・9世紀 京都・教王護国寺蔵 

その他の主な国宝作品の展示予定

2006年 3月7日(火)～6月18日(日) ●太刀 銘 安綱(名物 童子切安綱) 平安時代・10～11世紀 本館13室
3月28日(火)～5月7日(日) ●銀銅蛭巻太刀 平安時代・12世紀 和歌山・丹生都比売神社蔵 本館14室
4月25日(火)～5月28日(日) ●十六羅漢図(第六尊者) 北宋時代・10～12世紀 京都・清凉寺蔵 東洋館第8室
5月23日(火)～7月2日(日) ●鷹見泉石像 渡辺崋山筆 江戸時代・天保8年(1837) 本館8室
6月20日(火)～9月18日(月・祝) ●八橋蒔絵螺鈿硯箱 尾形光琳作 江戸時代・18世紀 本館13室
9月5日(火)～10月1日(日) ●紅白芙蓉図 李迪筆 南宋時代・慶元3年(1197) 東洋館第8室
9月20日(水)～12月17日(日) ●太刀 銘 備前国友成造 平安時代・11世紀 山本達郎氏寄贈 本館13室

10月11日(水)～11月19日(日) ●寛平御時后宮歌合(十巻本) 伝宗尊親王筆 平安時代・12世紀 本館3室
11月21日(火)～12月6日(水)、12月19日(火)～2007年1月14日(日) ●十二天像(風天) 平安時代・9世紀 奈良・西大寺蔵 本館3室
12月19日(火)～2007年1月28日(日) ●楼閣山水図屏風 池大雅筆 江戸時代・18世紀 團伊能氏寄贈 本館7室

2007年 1月2日(火)～3月25日(日) ●梅時絵手箱及び内容品 鎌倉時代・13世紀 静岡・三嶋大社蔵 本館13室
--

天台宗開宗一二〇〇年記念 特別展

最澄と天台の国宝

国宝三十一件、重要文化財約一〇〇件を含む天台美術の粋のなから、これだけは見ておきたい重要ポイントを解説します。

point 1

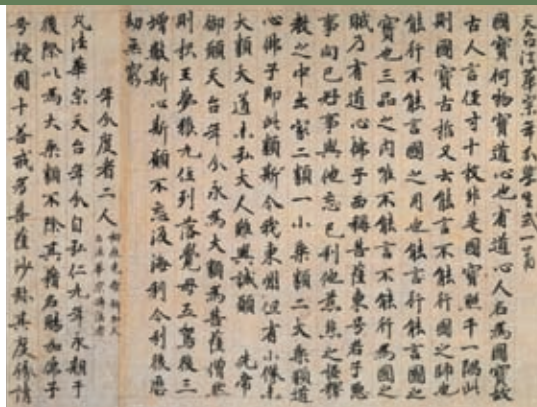
天台開創の経過を伝える 最澄自筆文書を見逃すな！

最澄（七六七〜八二三）は生前、比叡山に戒壇を設立することを悲願としていました。当時、戒壇のあったのは奈良の東大寺、下野（栃木県）の薬師寺、筑前（福岡県）の観世音寺のみで、比叡山で修行した最澄の門弟は受戒のために奈良に赴きました。ただ、この下山を機に南都に定着するものもあつたため、天台宗の興隆のためには比叡山に戒壇を設立

するのが急務と考えていたのです。『天台法華宗年分縁起』は最澄の自筆で、こうした日本天台宗開創にあつた経過が知られる最も基本的な資料です。瘦身でバランスのよい字形や端正な書風からは最澄の能書ぶりと品格の高さ、真摯な性格とを窺うことができます。

その悲願は最澄の生前には達成されませんでした。最澄の没した翌年の弘仁十四年（八三三）に、最澄の弟子義真が戒師として、第一回の授戒が行われます。その受戒者の一人が光定で、「光定戒牒」は最澄の弟子光定が菩薩戒を受けた時の受戒の証明書です。最澄とともに大乗戒壇設立にあたり尽力した光定の功績を賞して、嵯峨天皇がとくに宸筆を染めたものです。

（鳥谷弘幸）



●天台法華宗年分縁起（部分） 伝教大師筆 平安時代・9世紀 滋賀・延暦寺蔵 最澄の天台宗興隆への篤い願い（3月28日〜4月16日展示）



●光定戒牒 嵯峨天皇筆 平安時代・弘仁14年(823) 滋賀・延暦寺蔵 最澄の弟子光定が受戒した証明。最澄の悲願であった戒壇設立が達成されたことを示す貴重な文書（3月28日〜4月16日展示）

point 2

豊饒なる天台美術の花園を堪能したい

天台宗の美術は、法華経、密教、浄土教、山王神道など、色香とりどりの花々が咲き競う花園を思わせませす。もちろんその中心は、永遠の釈尊を讃えた「法華経」にまつわる美術です。丹精をこめて金銀泥で書写した法華経、仏法の存続を祈って埋納した華麗な金銅経箱、法華経の信者を見守る普賢菩薩の優美な絵すがた。それらの優れた造形の根底には、仏の供養に善美を尽くす事こ

そ、救いに至る道であるとする「作善」の心が、滔々と流れていたといえましょう。そして、現世のさまざまな願いをかなえる密教も、円珍らの尽力によって盛んとなり、威容を誇る千手観音や不動明王の像、洗練された密教宝具が制作されました。一方、末法の訪れに対する危機感から、来世での極楽往生を願う浄土信仰が、源信の『往生要集』を契機として高揚します。極楽から迎

えに來る阿弥陀を描く来迎図、輪廻の凄惨さを描き出す六道絵。浄土教の美術は、往生の歓喜と地獄の苦悩を浮き彫りにします。さらに、仏菩薩と古来の神々との習合を説く山王神道も、各種の山王曼荼羅を生み出しました。かくも多彩な美術の礎を築いた、宗祖最澄の懐深い寛大さを偲びつつ、豊饒なる天台美術の花園をご堪能ください。

（行徳真一郎）



●千手観音菩薩立像 平安時代・9世紀 滋賀・延暦寺 最澄の時代にさかのぼる貴重な遺品で、異国的な風貌が印象的



紫陽花双鶏図 伊藤若冲筆 江戸時代・18世紀
自然と装飾という一見相反する要素が昇華した
若冲コレクションを代表する1点



柳に白鷺図
鈴木其一筆
江戸時代・19世紀
瀟洒な江戸琳派を
代表する一作

魅力に満ちた江戸時代絵画の収集で知られている、アメリカ・カリフォルニアのエツコ・ジョウ・プライスコレクションの展覧会を開催します。

プライスさんは、近年人気を集めている伊藤若冲の魅力をいち早く見いだした人です。コレクションは、約千点。そのほとんどが江戸時代の画家のもので、展覧会では、その中からプライスさんと当館が共同で選んだ約百点を展示いたします。若冲を中心に、長沢蘆雪、森狙仙など個性豊かな上方画家の作品、酒井抱一、鈴木其一など江戸琳派の作品、また肉筆浮世絵など、近年美術愛好家が関心を寄せる、個性的で楽しい作品が並びます。

(田沢裕賀)

プライスコレクション 若冲と江戸絵画展

2006年7月4日(火)～8月27日(日) 東京国立博物館 平成館

主 催：東京国立博物館 日本経済新聞社

プライスコレクション 若冲と江戸絵画展



●普賢菩薩像 平安時代・12世紀 東京国立博物館
慈悲の眼差しで礼拝者を見つめる普賢菩薩。繊細優美な院政期仏画の傑作
(3月28日～4月16日展示)

■関連イベント

「天台声明公演」

4月7日(金) 18:30～19:30 本館前(雨天時は屋内)

出演者 天台宗東京教区

「声明」とは、仏教の儀式において、経などに節をつけて唱える読経の一方法で、一種の宗教音楽です。インドに発祥した仏教音楽を起源とし、5～6世紀の仏教伝来とともに日本に伝えられ、独自に発展を遂げました。関連イベントとして、天台寺院で唱えられている「天台声明」を紹介します。

※聴講無料、当日ご来館の皆様は自由にお聞きいただけます
(ただし、当日の入館料は必要です)

天台宗開宗1200年記念 特別展 最澄と天台の国宝

2006年3月28日(火)～5月7日(日) 東京国立博物館 平成館

主 催：東京国立博物館 天台宗 比叡山延暦寺 天台宗京都教区
読売新聞東京本社

後 援：文化庁

協 賛：大成建設 サントリー ダイワボウ情報システム 図書印刷
ニッセイ同和損害保険 日本香堂

協 力：天台宗東京教区 JR東日本

観覧料：一般1300円(1100/1000) 大学・高校生900円(700/600)
小・中学生400円(300/200)

※()内は、前売り/20名以上の団体料金です

※障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください

※作品保護のため、会期中作品の展示替があります

重要文化財

風神雷神図屏風

尾形光琳筆

天神絵巻の風神雷神か、お能の風神雷神か

4月11日(火)～5月21日(日) 本館7室 屏風と襖絵



◎風神雷神図屏風

尾形光琳筆 江戸時代・18世紀
貧に候えども、心楽にいたしたく候

光琳の畢生の作であるこの屏風には、風神と雷神が対峙する形で描かれています。この図柄の源泉は、光琳が描き残した画稿にあるように「北野天神縁起絵巻」のなかに見出されています(大谷満『光琳画の秘密』芙蓉書房出版)。絵巻は菅原道真の怨霊の話なので、神々は崇りをなす恐ろしい形相で描かれています。光琳のこの屏風では、どこかのどかな顔で描かれています。では、いったい光琳は、風神と雷神で何を描きあらわそうとしたのでしょうか。

京の高級呉服商「雁金屋」の次男として生まれた光琳は、幼い頃から芸能のひとつである能を本格的に学び心血を注ぎました。光琳は、さまざまな人たちと交流しましたが、公卿の二条綱平や前橋藩主の酒井忠孝、そして、光琳の最大の後ろ盾であった銀座年寄の中村内蔵助とも能によって、その結びつきが強められました。光琳と絵を注文する立場である社会的地位の高い人々との交流の場では、能は非常に大きな意味をもっていたのです。

そこで、近年は、能と描かれた

作品との関係に注目して、光琳は能の内容を巧みに描き出しているという意見が出されるようになりました。

この金屏風も、めだたい能の内容が描かれているという意見があります(前掲書)。左隻の雷神は、能の「加茂」に登場する賀茂神社の神で、白羽の矢が天に上り、五穀豊穡、国土守護の神徳を示す神となつた別雷神があらわされており、右の風神は、能「逆矛」の龍田明神で、風災を免れ、豊作を祈る祭りである風の神祭の神であるとされています。

時代を隔てて、光琳を慕つた絵師の酒井抱一も、大名家の子息でした。したがって、能に対する造詣はたいへん深く、光琳のこの屏風に込められた真意もたやすく理解できたかもしれません。このように、絵画に描かれた事物は、何らかの意味をふまえたものが多く、そのことを探求していくことは、絵画をみる上で大きな意義があり、またたいへん楽しい作業でもあるのです。

(松嶋雅人)

2006年9月までの講演会のお知らせ

◆月例講演会

毎月1回、当館の展示・研究員の研究テーマ等に関連した講演会を開催します。

会場：平成館大講堂 定員：380名
聴講無料(ただし入館料が必要です)

4月22日(土) 13時30分～15時

「公家の太刀 武家の太刀—さまざまな太刀外装—」
列品室主任研究員 池田 宏

5月13日(土) 13時30分～15時

国際博物館の日記念
「博物館？それとも動物園？—みんなで楽しむ博物館—」
ハンズ・オン・プランニング代表
ミュージアムコンサルタント 染川香澄

6月3日(土) 13時30分～15時

「内国勲業博覧会の工芸」 平常展室長 伊藤嘉章

7月1日(土) 13時30分～15時

「ガンダーラの仏伝図」 平常展室主任研究員 小泉恵英

8月12日(土) 13時30分～15時

「博物館で情報を探す」 情報管理室長 田良島 哲

9月16日(土) 13時30分～15時

「能装束の歴史—デザインと様式の変遷—」
平常展室研究員 小山弓弦葉

◆テーマ別講演会

「江戸時代後期の絵画」をテーマに専門性のある連続講演会を開催します。(全4回)

会場：平成館大講堂 定員：380名
聴講無料(ただし入館料が必要です)

5月20日(土) 13時30分～15時

第1回「変容する江戸絵画」 教育講座室長 田沢裕賀

6月10日(土) 13時30分～15時

第2回「南画と南蘋派」 新潟大学教授 武田光一

6月17日(土) 13時30分～15時

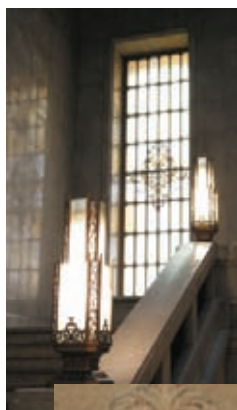
第3回「抱一・其一の活動とその背景」
武蔵野美術大学教授 玉蟲敏子

6月24日(土) 13時30分～15時

第4回「18世紀京都の絵画—その遠心性と求心性—」
京都国立博物館文化資料課長 狩野博幸



親と子のギャラリー



博物館って どんなんところ？

たても の 編 本館 本館を、もっともっと楽しもう。

3月7日(火)～4月23日(日) 本館、平成館1階 企画展示室

上野公園の桜並木をゆるやかにのぼりながら、噴水の向こうに目をやると、赤茶色の屋根をいただいた東京国立博物館本館(日本ギャラリー)が、木々のあいだに堂々と建っているのが見えます。東京国立博物館の顔ともいえるこの建物は、銀座の和光や第一生命館の建築で知られる渡辺仁の設計です。本館の設計プランは公募され、273案の応募から渡

辺の設計が選ばれました。現在開催中の親と子のギャラリーでは、渡辺をはじめとする入選した応募図面や審査結果、建設写真などの貴重な資料展示と、建物細部の美しい意匠や貴賓室などをめぐるガイドツアーなどを行っています。当館の収蔵品の中で一番大きな重要文化財「本館」の知っているようで知らなかった一面をお見せします。(藤田千織)

■展示関連プログラム■

「本館を歩く」ツアー

どなたでも当日参加可能。ガイドスタッフの案内で、建築に注目しながら約40分間で本館を回ります。

- * 会期中、毎週水曜日・土曜日 13:00より。
- * 集合場所：平成館1階 企画展示室

「本館を遊ぶ」探検隊

小学生～中学生対象の当日参加プログラム。平成館1階 企画展示室で、スタッフからミッションを受け取ってスタートします。ミッションを完了すると、ちょっとしたおまけがもらえます(スタッフは同行しません)。

- * 会期中、毎日 11:00～16:00。
- 好きな時間にトライできます。

「本館を見る」マップ

建築上の注目ポイントをのせたマップをもち、ご自分で本館めぐりをしてみてください。配布場所は正門、本館正面入口、本館1階17室、平成館1階 企画展示室です。

ハンズ・オン体験コーナー

68年の時を経た、本館建設当時の瓦や椅子に自由にさわれます。下から見上げるのとは違う瓦の大きさを実感してください。平成館1階 企画展示室にて。

本館をプロモーション

3月12日(日)まで皆さんから募集していました、本館の魅力を伝えるキャッチコピーを発表します。当館ホームページで＜催し物＞→＜親と子のギャラリー＞をごらんください。

これだけは見逃せない!
おすすめの
この1点

謎に包まれた肖像画の傑作

国宝 伝藤原光能像

4月11日(火)～5月7日(日) 本館2室 国宝室



●伝藤原光能像 鎌倉時代・13世紀 京都・神護寺蔵
画像の注文主はどんな思いを持ってこの画像を作らせたのだろうか

この画像は、源頼朝像、平重盛像と伝えられてきた二つの画像と共に神護寺に伝来するものです。その神護寺所蔵の三画像については、近年、像主の変更を提示する説が出され話題になりましたが、その制作背景や伝来経緯については以前から幾つかの説が言われていました。中でもこの伝藤原光能像は位置づけが曖昧で、藤原光能という名も、根拠となる史料と画像自体の結びつきには確実な根拠がありません。江戸時代初期の神護寺の宝物目録や幕末に刊行された古美術品の集成図から、江戸時代を通してこの画像が藤原成範というまったく別の人物として認識されていたことも指摘されています。唯一、確実な情報としては、画像そのもののしかないのが現状です。

では、画像そのものとはというところ、伝来情報の揺らぎとは裏腹に、揺るぎのないしっかりとした造形で、日本の肖像画の歴史の中で質と規模の両面において傑出した作品といえるものです。縦一四三・〇センチ、横一一・六センチ。ほぼ等身像を描き出す大画面。通常これだけの大きさの画面の場合、絵絹を複数継いで用いるところ、この画像は一枚の絵絹に描かれています。これほど大きく、しかも一枚の絵絹に描かれたものは類を見ません。また、顔の繊細な描写と衣服の堂々とした描写も見事です。細い淡墨線二本一本方向性をつけて丁寧に描かれた眉や髭、顔の柔らかな肉付きを表すためのほんのりと施された朱の暈し。衣を象る、歯切れ良くためらいのない太くかつふりとした輪郭線。その線を活かすように、線の中を彫塗り技法で少しのはみ出しもなく正確に塗り込められています。衣の白い部分に銀泥の暈しを施すおしゃれな感覚も見逃せません。まずは、画像そのものとの対話を楽しむことから始めてみてください。そこを離れて真実はなく、さまざまな仮説推理もそこからしか出発できないのですから。

(沖松健次郎)

平成館企画展示室

天野社伝来の仮面

特集陳列「舞楽面と行道面」

5月9日(火)～6月18日(日)

東京国立博物館は多くの仮面を所蔵していますが、高野山の鎮守である天野社(丹生都比売神社、和歌山県かつらぎ町所在)に伝来した中世の行道面、舞楽面などの仮面群は、その中核をなすものです。これらは天野社で一切経会に際して行われた舞楽四箇法要に用いられました。行道面は一切経を乗せた輿(こし)をひく者(輿かき)がつけた仮面で、形態や面の補筆銘からそれが二十八部衆を

かたどったものとわかります。二十八部衆の面は他に現存例が知られません。舞楽面には散失したものもありますが、陵王、納曾利など八種十五面が現存し、演じられた舞楽がかなりの規模であったことが知られます。そのほかに、鎌倉末期の年紀のある追儼面(鬼追いの面)があります。この特集では天野社伝来の仮面以外の舞楽面、行道面も展示します。

(丸山十郎)

本館14室

身分や時代による違いに注目

特集陳列「公家の太刀・武家の太刀」

——さまざまな太刀外装——

3月28日(火)～5月7日(日)

飾剣、競馬太刀、蛭巻太刀、兵庫鎖太刀、糸巻太刀、黒漆太刀。いずれも今回展示する作品です。太刀の種類には、大きく分けて儀式用と実戦用のもの、公家を用いたもの、武家が身につけたものなど用途や身分による相違があり、時代による流行もありました。

正倉院の太刀の模造をはじめ、『枕草子』の「めでたきもの」のなかに

も記されている飾剣、その略装である細太刀などの公家の太刀、武家が好んで用いた兵庫鎖太刀や糸巻太刀など、さまざまな形式の太刀を展示いたします。

それぞれに異なる反りのついた姿をはじめ、鐺や金具の意匠、鞘の漆塗などの装飾も見所の一つです。

(池田 宏)

東洋館第3室

仏教とヒンドウの小さな像たち

特集陳列「東南アジアのブロンズ彫刻」

3月21日(火・祝)～7月2日(日)

インドで生まれた仏教、ヒンドウー教は、周辺諸国へも漸次広がり、さまざまな形で信仰を集めました。本特集では、スリランカ、ミャンマー、タイ、

カンボジア、インドネシアで、八～十四世紀にかけて制作された仏教とヒンドウー教の尊像を集めました。七～十世紀頃のインドネシアでは

文化の中心がジャワ島中部にあり、この時代にはヒンドウー教と大乘仏教がともに栄えました。ここでは大乘仏教の像と密教法具を展示します。

カンボジアでは、壮大な寺院が建築されたアンコール時代に属するヒンドウー神像やインド古代叙事詩のラーマヤナに登場するハヌマーン像などがあります。

いずれも掌にのるほどの小品ですが、ポロブドゥールやアンコールワットなど当時の王権と結びついた壮麗な寺院を頂点に、民間に広まっていた当時の信仰のありさまに思いを巡らせてみてください。(小泉重英)



行道面 二十八部衆夜叉天
鎌倉時代・13世紀
表情の豊かさに注目



大日如来坐像
インドネシア 中部ジャワ時代(9～10世紀)
高さ12.8cmのかわいらしいお像



●梨地螺鈿金装飾剣

平安時代・12世紀
天皇から特別な許可を受けた公家が
儀式の時に佩(は)いた剣(たち)

特集陳列「エトルリア陶器」

「イタリア国立東洋美術館交換品」

4月25日(火)～7月17日(月・祝)

東博といえは日本と東洋の……

と、暗誦できるほどですが、百三十四年の歴史の中でヨーロッパの作品も収蔵されてきました。昭和三十三年の交換でイタリアから寄贈された古代陶器もそのひとつです。中でも今回は中部のエトルリアで出土した作品を披露します。

ローマ以前から栄え、ローマをも支配したエトルリア人は、ギリシャ陶器を愛し、大量に輸入しただけで

なく、自らも模倣を始めました。また黒光りするブツケロと呼ばれる独自の土器も生産しました。骨壺の蓋には死者の姿を表し、墓には神像を奉納しました。

昭和四十年の博物館ニュース二一九号で、かの高島コレクションとともに東洋館(昭和四十二年開館)の主要コレクションに位置づけられたエトルリア陶器。四十年ぶりの玉手箱は4月25日に開きます。(白井克也)



水差し
エトルリア 紀元前3～紀元前2世紀 イタリア・ラツィオ州カステラーナ出土
黒い彩色を塗り、残った赤い地色の部分で女性の顔を表す

上野恩賜公園 開園式典130周年記念 特集陳列「上野公園」

明治六年(一八七三)、上野のお山は日本で最初の、太政官布達による公園となりました。そして三年後の明治九年(一八七六)五月九日、上野公園の開園式典が行われました。上野恩賜公園開園式典130周年を記念して二つの特集陳列を開催いたします。

本館16室 歴史資料

上野公園の昔をさぐる! 日本の博物学シリーズ

特集陳列「上野公園の130年」 4月25日(火)～6月25日(日)



天皇皇后両陛下下行幸啓図
楊洲周延筆 1組(3枚)
明治9年(1876)刊
明治9年5月9日の開園式。
天皇皇后両陛下の行幸啓を仰いだ

明治二年(一八六九)、明治維新の混乱によって閉鎖されていた上野の山が一般に開放されました。同六年に旧寛永寺境内の大部分が公園としての指定をうけ、その二年後上野の寛永寺本坊跡に博物館を開設する方針が内定すると、博物館は一帯の整備に着手し、「上野公園貸地条例」を定めるとともに、道路の修築拡張、休憩所の修繕、公園事務所の設置などを行いました。公園の整備が一段落した明治九年五月九日、天皇皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ、開園式が挙行されました。以来、この地は多くの人々に親しまれ、大正十三年(一九二四)には皇太子のご成婚を記念して、公園が東京市に下賜され、現在にいたっています。今回は、開園一三〇周年をむかえた上野公園の沿革に関する資料を展示いたします。(高橋裕次)

本館14室 工芸

上野の山の博覧会

特集陳列「内国勸業博覧会の工芸」 5月9日(火)～7月2日(日)

明治十年(一八七七)、ここ上野公園を会場として万国博覧会の国内版とも言うべき内国勸業博覧会が開催されました。国内の産業を振興することを目的に開かれた内国博は都合五回開催され、第三回までがこの上野公園で開催されています。

明治十四年(一八八二)の第二回内国博では、新築なったばかりの博物館本館が会場として使われるなど、当館と博覧会には深い関係がありました。明治前期には博物館は日本の産業振興という役割も担っていました。このために第一回、第二回の内国博ではその頃の日本産業の核であった工芸作品を数多く購入しています。今回はこの二つの博覧会に出品された工芸品をご紹介します。

◎楊軸蟹貼付台付鉢

初代宮川香山作
明治14年(1881)
第二回内国勸業博覧会出品作
宮川香山の陶芸は世界的にも高い評価を得ていた。蟹の貼り付いたこの鉢は香山前期の代表作



(伊藤嘉章)

本館10室 浮世絵

後姿の魅力

見返り美人図

3月28日(火)～4月23日(日)

切手の図柄となったことでよく知られた作品です。

歩みの途中で振り返った美人の



見返り美人図
菱川師宣筆 江戸時代・17世紀
腰つきが色っぽい元禄美人

姿を背の方から描いたこの作品は、その姿から「見返り美人図」と名付けられています。菱川師宣(ひしかわもろのり)の署名がある作品には、弟子たちが協力した工房作も多いのですが、流行の帯の結びと鮮やかな衣装を見せるような後姿、腰の丸みを感じさせる肉感的な描写、反らせた体と右側に取られた空間のバランス、そして真横から描かれた顔。見る者を強く引きつける描写は、師宣作品の中でも際立った特徴を示しており、基準的作品とされています。

(田沢裕賀)

とうはくそだより5

桜の園へようこそ

花の雲 鐘は上野が浅草か 芭蕉

山全体が桜色にかすんで、上野は一年でいちばんにぎやかな季節を迎えます。駅を降りたとなんの喧騒に「ちよつとんざり」という方もおられるのでは？ 静かに桜を楽しみたい向きには、東博の庭園散策をお勧めしま



す。桜の時期には本館裏の庭園も一般開放されます。庭園入り口は東洋館のレストラン・ラコールの前。右手の築山にはミカドヨシノ、そのまま進むと松永耳庵ゆかりの茶室をバックにエドヒガンの枝垂れが風に揺れる美しいシーンに出会えます。奥の散策路にはソメイヨシノの大本が連なり、応挙館の横手では緑の花のギョイコウザクラ、本館裏手の池前ではピンクが愛らしいシロウフクジザクラに白花が清しいオオシマザクラを愛でましょ。種類の違う桜が順に花を咲かせていくのが東博の庭園の魅力です。

実は江戸時代は、上野の山は鳴り物禁止、入相の鐘がなったら花見客は追い出されてしまったとか。存外静かなお花見で、鐘の音がしみじみと響いたことでしょう。

(小林 牧)

春の庭園開放3月11日(土)～4月16日(日)。庭園入り口では、庭園散策マップを配布します。公園の上野観光連盟案内所などで上野商店街連合会による「上野公園桜マップ」を配布予定

東博の樹木をめぐる樹木ツアーが生徒学習ボランティアによって行われています。この連載もボランティアガイドの資料を参考にしています。ガイドの日程は本誌裏表紙をご覧ください。

本館13室 漆工

和歌の意匠を探してみよう

重文 男山詩絵硯箱

3月14日(火)～6月18日(日)



◎男山詩絵硯箱 室町時代・15世紀
図様の中に文字が巧みに隠されている。
特集陳列「室町時代の漆芸」で展示

室町時代は連歌が大いに盛んで、有名な和歌を表したデザインの時絵作品が数多く制作されました。この硯箱はその代表例ともいっ

き存在で、蓋表には遠山にのぼる月、険しい坂道、女郎花・芒・菊・桔梗などを描いています。画中に「なを・代々に・男」の文字を隠していることから、『続後撰和歌集』の源雅実の歌「なほてらせ代々にかはらずをとこ山 あふぐみねよりいづる月かげ」を表す意匠であることが分かります。男山は現在の京都府八幡市にあり、山頂に石清水八幡宮をまつる名所です。(竹内奈美子)

東洋館第10室 朝鮮陶磁

日本で愛された秋草手

青花草花文壺

12月3日(日)まで



青花草花文壺
朝鮮時代・17～18世紀 山田丑太郎氏寄贈
楚々とした絵付けが日本人の心をとらえた

余白をたっぷりとり、簡素な筆づかいで胴の三方に草花文が描かれています。淡い発色の青花が、潤いのある温かな釉膚に映えて、余韻のある情趣をそなえています。

この種の青花磁器は日本では秋草手と呼ばれ珍重されています。大正末から昭和初期にかけて朝鮮時代の陶磁器への関心が高まり、なかでも抒情的な作風の秋草手は大いに注目を集めました。題材として描かれているのは、必ずしも秋の草花に限りませんが、感傷に訴えるその作風にふさわしいことから秋草手の名が定着したのでしょう。

(公井 敦)

平成館 日本の考古

臨場感あふれる狩猟場面再現

埴輪 矢負いの猪

6月25日(日)まで

古墳時代にはさまざまな形の形象埴輪がつくられました。古墳の上やその周辺で、人物や動物、家、大刀や盾などの器財埴輪が整然と立て並べられ、円筒埴輪によって区切られた空間でさまざまな儀礼をおこなっている場面が再現されていました。その中には狩猟の場面もあり、狩人とそれにつき従う犬、そして狩猟の対象である猪や鹿が組み合わされて配置されました。本例は狩人が放った矢が背中に刺さっている状況をあらわした猪の埴輪で、全国的に見ても類例の少ない貴重なものです。

(日高 慎)



埴輪 矢負いの猪 伝千葉県我孫子市出土
古墳時代・6世紀 背中の矢に注目！



ようこそ！
博物館の舞台裏へ



第9回

国際シンポジウムの裏側

研究者が情報を交換し意見を交わすシンポジウムは、博物館の活動を活性化させる栄養剤のようなもの。その成果は、展示や教育普及の新しい試みとなって披露されるはず。今回は、2006年2月に開催された国際シンポジウムの裏側に皆様をご招待します。

緊張の幕開け

2006年2月4日、東京国立博物館で、国際シンポジウム「世界の現場から」今、博物館教育を問う―家族、学校、地域にむけての取り組み―が開催されました。

独立行政法人国立博物館で教育普及をテーマに国際シンポジウムが開かれるのは初めてのことで、どんな発表があるのか、博物館の歴史的背景もそれを取りまく状況もまったく異なる各国の研究者の討論が果たしてうまくかみあうのか、スタッフ一同期待と緊張の朝を迎えました。

この日のためにお迎えしたのは、イギリス・ロンドンのヴィクトリア・アンド・アルバート美術館から教育部長のデヴィッド・アンダーソンさん、アメリカ・デンバー美術館のシニアエデュケーター、パターソン・ウィリアムスさん、ソウルの韓国国立中央博物館の教育室長ウ・スヨンさんです。日本代表は、昨年の10月にオープンしたばかりの九州国立博物館企画課長三木美裕さんと東京国立博物館教育講座室研究員の鈴木みどりさん。

平成館大講堂、午後1時。シンポジウムの口火をきつたのは、ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館のデヴィッド・アンダーソンさんの基調講演でした。美術館・博物館を訪れた人が「参加すること、経験すること」が大切、というデヴィッドさん。さまざま

また教育プログラムの紹介や、地域と一体となった大プロジェクトに関する報告を通して、「来館者本位」「人間本位」の美術館・博物館のあり方が力強く示されました。日本とはかなり異なる環境や状況に驚きを感じたのは、私だけではなかったはず。と同時に、日本の美術館・博物館関係者に向けた温かい励ましのメッセージと日本という異文化に対する関心と尊敬が感じられる講演で、スタッフ一同はこのシンポジウムの成功を確信したのでした。

東博でも「親子のギャラリー」や学校向けの教育プログラムは毎回好評を博しています。しかしその一方で、関係省庁における諮問や政府の規制改革・民間開放推進会議などでは、教育普及事業の縮小や外部委託の推進などが取りざたされ、その見直しを迫られています。現場の抱える問題は深く大きく、海外のさまざまな事例を聞き、その方法を学ぶことは非常に有意義なものと思われました。スタッフがまず手をつけたのはシンポジウムに出席していただく研究者の人選です。

第一歩は人選から

国際シンポジウムの開催が企画されたのはおよそ一年前。シンポジウムの目的は、世界各国の研究者を集め、最新の情報を国内の研究者や博物館関係者に提供すること。さらに海外の研究者に日本の博物館の実態を視察してもらい、お互いに交流を深めることにあります。私たちはこれを、ナショナルセンターとしての国立博物館が果たすべき重要な役割として位置づけ、事業計画に盛り込みました。担当は、講座や講演会を開催する教育講座室と各国の美術館・博物館、および研究者同士の国際交流を推進する国際交流室です。テーマは、美術館・博物館関係者にとって広く関心のある「教育普及」が選ばれました。日本における美術館・博物館教育は、発展期にあるとも過渡期にあるともいわれています。

1 さまざまな事例報告を通して問題点を多角的に浮き彫りにするために、異なる地域や文化の研究者を集めよう。

2 ナショナルセンターとしての教育普及事業のあり方を探るため、できれば国立館の研究者に参加してもらおう。

3 日本の国立博物館と同様、古美術を扱う館の活動事例を聞きたい。

以上三つをポイントに、東博および九州国立博物館の三木さんを中心にして人選がすすめられました。結果は冒頭に記したとおり。博物館の歴史が古く教育普及活動についても長い実績をもつイギリスから博物館教育の世界的な第一人者を、博物館教育の先進国ともいえるアメリカから展示を通じた冒険的な試みを精力

的に行っているベテランを、そして先ごろ大リニューアルを果たし、教育部門においても新しい企画を立ちあげたお隣、韓国の国立中央博物館から新進気鋭の研究者を、というわけで三人に白羽の矢がたちました。日本からは、開催館である東博と、子ども向けの教育普及スペースを常設する九州国立博物館のホットな事例をとりあげることになったのです。

古都から九州へ交流の旅

海外からの参加者が来日したのは、シンポジウムの二週間ほど前から。それぞれの都合によって、ご家族を伴って一足先という人もあれば、ぎりぎりの人もあり。それでもシンポジウムの五日前には全員が顔を合わせ、京都、奈良、九州の国立博物館三館の旅をともにしました。旅のアレンジをしたのは国際交流室長の鬼頭智美さんです。「各館の教育普及活動を見ていただくことも重要でしたが、旅を通して日本の文化に触れてもらいたい、という思いがありました」。



京都の旅で

例えば京都では、博物館のすぐ近くの三十三間堂や清水寺にご案内しました。博物館にある古美術の多くが仏教とかかわりをもっている

シンポジウムの一日

9:00 シンポジウムの配布資料とタイムスケジュール表。さあ、緊張の一日のはじまりだ

9:30 案内看板も手作り。すべて前日までに用意した

10:00 各館の教育担当が制作した活動報告ポスターを掲示

10:30 会場設営をする田沢裕賀さんと金井裕子さん

11:00 大講堂後部のブースで音声技術者が調整を開始

11:00 講師控室に登壇者が集合。左から韓国のワン・ゲンオクさん、イギリスのデヴィッド・アンダーソンさん、韓国のパターソン・ウィリアムスさん、国際交流室長の鬼頭智美さん

12:30 受け付け開始

12:00 受け付けの準備も着々と進む。各館のパンフレットなども参考展示



国際シンポジウム

世界の現場から 今、博物館教育を問う
—家族、学校、地域にむけての取り組み—

2006年2月4日 東京国立博物館 平成館大講堂

主催：独立行政法人国立博物館

基調講演：「博物館の未来と役割—博物館教育の可能性—」
ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館
デヴィッド・アンダーソン

事例報告：「変化と解決」

デンバー美術館 パターソン・ウィリアムス
「韓国国立中央博物館における教育プログラム」
韓国国立中央博物館 ウ・スヨン

「博物館ってどんなところ？」東京国立博物館 鈴木みどり
「親子で楽しむ九博体験」九州国立博物館 三木美裕

いつも悠然としたのんびりムードのデヴィッドさん、パートナーと一緒

す。それらがもととおかれていた場所を訪れ、仏像を見れば自然と手を合わせる日本人の感性を体感してもらおう。料理にこめられた季節感や店のしつらいに、博物館で展示されている作品に通ずる日本の心を感じてもらおう。博物館教育は人を対象とした学問です。日本人とその文化に触れてもらうことが、日本における博物館教育のあり方や問題を探る上で重要なことだと考えたのです。

通訳の役目も務めた鬼頭さんは、説明するのが難しい場面にも遭遇、今更ながら彼らの違いを再認識したそうです。例えば、日本には博物館教育を専門とする大学院レベルのカリキュラムをもつ大学がないこと、欧米にはない日本の学芸員資格のことなど。キュレーター（学芸員）と同時にエデュケーター（教育普及専門員）が専門職として確立している欧米の研究者に、日本の状況を説明するのは困難で、鬼頭さん自身も大きな疑問にぶつかるのでした。そんなとき「韓国にも似たようなことがあるわ」と助け舟をだしてくれるのが韓国のスヨンさんでした。

で誰よりもリラックスして旅を楽しまれた様子のパターソンさん、率直で忌憚ない発言でいつも一行のムードメーカーになってくれたスヨンさん。旅を通して各国の研究者はお互いの信条や、それぞれの抱える問題点などを理解しあうようになりました。

シンポジウムを支える裏方

さて、話をシンポジウム本番に戻しましょう。前日までに、参加者リストの整理と名札の作成、会場機材の準備とテストなど準備は万全。

当日の運営は教育講座室、教育普及室、ボランティア室の三室からなる教育普及課と国際交流室総出で行われました。教育講座室長の田沢裕賀さんが陣頭指揮をとり、各自に配布された詳細なタイムスケジュールとシフト表に従って早朝からスタッフが忙しく動きまわりました。

会場の入り口では、国内の美術館・博物館などによるポスター発表が行われましたが、朝一番の仕事はポスターを張るパネルを用意すること。10時過ぎには、国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館、岡山県立美術館などの担当者がそれぞれの掲示を開始しました。

会場となる大講堂の裏側には、同時通訳および音響の技術者が到着し、機材の搬入や調整にかかりました。会場設営は教育講座室の担当です。パソコンとプロジェクターの接続、画像や音声の最終確認を行い、演壇やパネルディスカッションの際の椅子の位置の確認をします。そこへ「ちょっとデータを直していい？」と入ってきた韓国のスヨンさん。手直しは直前まで続きました。

会場外では、教育普及室やボランティア室スタッフが受付テーブルを設置し、名札や名簿の用意を始めました。講師控え室には、お弁当が運び込まれランチタイムに。ペタランも若手もそれぞれに緊張している様子です。12時、受け付けのテーブルには参加予定二百三十名すべての名札を並べ、配布資料もすっきり整いました。会場の設営も完璧です。

多種多様なプログラム

デヴィッドさんの基調講演に続いて四人の事例報告が行われました。アメリカのパターソンさんは、来館者に指示をするのではなく、来館者が自ら選んで「体験」することが重要であるという観点にたった事例を報告。韓国のスヨンさんは新しくオープンした子供博物館をはじめとする、さまざまな教育プログラムを紹介。なかでも印象深かったのは、障害者や外国人労働者向けのプログラムの存在でしょうか。東博の鈴木さんは博物館に親しみきっかけ作りとして企画された「博物館ってどんなところシリーズ」について、九博の三木さんは、触れる、遊べる子どものスペース「あじっば」に関する報告をしました。

これからの教育普及

音声、映像の記録をとるなど、発表の間も裏方の仕事はたくさんあります。遅れがちな進行を早めるため、登壇者に合図を送っていたのは

国際交流室のアンディーさん。会場外では、懇親会の用意も進められていました。

事例報告のあとは五人の研究者によるパネルディスカッションが行われました。キュレーターとエデュケーターの関係や外部スタッフの導入など、現場の抱えるさまざまな問題について意見交換されました。

午後6時、すべての討議が終了。シンポジウム後の懇親会の席で、大役を果たしたしほつとした面持ちの鈴木さんに話を聞いてみました。

「博物館教育の歴史が古く、確かな基盤のある欧米の事例には学ぶべきところがたくさんあります。でも、その手法だけを日本にもつてきてもだめなのでしょうね。学校向けプログラムにしても、美術や歴史といった教科にとらわれない総合学習の観点にたったものなど、日本ならではの形があるはず。」

このシンポジウムを開催してよかったのは、博物館にとって教育普及が重要であることを、皆で改めて確認できたことです。困難はあっても、自分のできることを確実にやっていこうという前向きな気持ちになりました。

すべての発表が終わり、私を感じたことは、このシンポジウムが教育普及の一担当者だけでなく、参加した館内外の多くの人に一粒の小さな種を蒔いたのではないかと、ということ。美しい花を咲かせることができるのか。大きな木に成長させることができるのか。十年先、二十年先を見据えた地道で着実な努力を、館全体で重ねていきたいものです。

(小林 牧)



19:30
今日の記録



18:30
大講堂では機材の撤収作業が続く



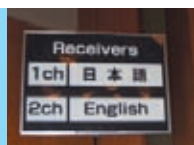
17:00
懇親会の準備が進む

16:35

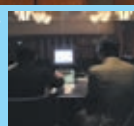
パネルディスカッション
左から、東博の鈴木さん、韓国のスヨンさん、イギリスのデヴィッドさん、アメリカのパターソンさん、九博の三木さん



14:40
各館の事例報告。写真は東博の鈴木みどりさん



13:00
アンダーソンさんの基調講演が始まる



12:45
同時通訳もスタンバイ



19:00
懇親会も開き。そしてポスターの撤収



18:00
懇親会で情報交換



◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究、平常展・施設整備等の充実に充てております。どうか賛助会の趣旨にご理解・ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

年会費	
特別会員	100万円以上
維持会員	法人 20万円 個人 5万円
特典	
●特別展の特別内覧会にご招待	
●東京国立博物館ニュースの送付	
●賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。	
●ご希望の方には資料および東京国立博物館賛助会員(TNM Members)入会申込書をお送りします。	
●お問い合わせは	
東京国立博物館営業開発部 賛助会担当	
TEL 03-3822-1111 (代)	

東京国立博物館賛助会員 2006年2月21日現在

特別会員

日本電設工業株式会社 様
東京電力株式会社 様
株式会社 コア 様
株式会社 精養軒 様
毎日新聞社 様
大日本印刷株式会社 様
株式会社 大林組 東京本社 様
朝日新聞社 様
株式会社 ホテルオークラエンタープライズ 様
株式会社 ミロク情報サービス 様
TBS 様
東京新聞・中日新聞社 様
株式会社 電通 様
読売新聞東京本社 様
クラブツーリズム株式会社 様
山越 保子 様

維持会員

三菱電機ビルテクノサービス株式会社 様
早乙女 節子 様
株式会社 三冷社 様
宇津野 和俊 様
伊藤 信彦 様
小金井造園株式会社 様
財団法人ソニー教育財団 様
株式会社 NTTドコモ 様
井上 萬里子 様
田添 博 様
京葉匠 鶴屋吉信 様
株式会社 東京美術 様
飯内 匡人 様
服部 禮次郎 様
岩沢 重美 様
高田 朝子 様
齋藤 京子 様
齋藤 邦裕 様
株式会社 安井建築設計事務所 様
株式会社 ナガホリ 様
井上 静男 様
佐々木 芳絵 様
藤原 紀男 様
小田 昌夫 様
吉岡 昌子 様
松本建設株式会社 様
関谷 徳衛 様
高橋 守 様

小澤 桂一 様
上久保のり子 様
寺本 明男 様
榎田 良豊 様
株式会社
スタイルカフェ・ドット・ネット 様
長谷川 英樹 様
池田 孝一 様
木村 剛 様
観世 あすか 様
コクヨ株式会社 様
星 埜 由尚 様
株式会社 鴻池組 東京本店 様
株式会社 アクタス 様
林 宗毅 様
安田 敬輔 様
久保 順子 様
渡辺 章 様
稲垣 哲行 様
堀江 磨紀子 様
帖佐 誠 様
株式会社 古美術蔵本 様
飯岡 雄一 様
峯村 協成 様
大嶋 道子 様
牧 美也子 様
高瀬 正樹 様
坂井 俊彦 様
山本 富三郎 様
寺浦 信之 様
高木 弘幸 様
高木 美華子 様
晩飯島工業株式会社 様
山岡 ユウ子 様
根田 穂美子 様
松本 澄子 様
池嶋 洋次 様
岡塚 泰光 様
是常 博 様
上野 孝一 様
北山 喜立 様
謙慎書道会 様
社団法人 全国学校栄養士協議会 様
小笠原 繁 様
山田 泰子 様
原 桃介 様
近代書道研究所 様

(ほか20名4社、順不同)

◆コンサート開催のお知らせ

クレグ・アークハート ピアノ・ソロ ミニ・ライブ

日時 4月4日(火) ①13:00開演 ②14:30開演(各回30分)
会場 東京国立博物館 平成館ラウンジ
出演 クレグ・アークハート
主催 東京国立博物館 クリスタル・アーツ
曲目 「春」 Fruhling
「ヴェネチアの雪」 Venetian Snowfall
「ストリームウォーカー」 Streamwalker ほか
料金 無料・事前申込不要(ただし当日の入館料が必要)
※当日、会場にお集まりください。

タマーシュ・ヴァルガの世界

日時 4月17日(月) 19:00開演
会場 東京国立博物館 平成館ラウンジ
出演 タマーシュ・ヴァルガ(チェロ)
主催 東京国立博物館
曲目 無伴奏チェロ組曲1番 長調BWV1007
ヨハン・セバスティアン・バッハ
無伴奏チェロ組曲2番 短調BWV1008
ヨハン・セバスティアン・バッハ
無伴奏チェロソナタ作品8 コダーイ・ゾルタン ほか
料金 一般 4000円(平常展観覧券付)
ペア券 7000円(平常展観覧券付)
学生 3000円(平常展観覧券付・50席限定)
250席 全席自由

チケットのお求め方法

●当館正門観覧券売場でチケット販売
受付 開館日の9:30～閉館30分前(月曜休館)
●電話予約販売
申込先 東京国立博物館イベント担当 TEL 03-3821-9270
受付 月曜日～金曜日の9:30～17:00(祝日は除く)
※チケットは、当館正門観覧券売場にて現金引換にてお渡します
引換時間 開館日の9:30～閉館30分前(月曜休館)
※各イベント詳細は、東京国立博物館イベント担当(03-3821-9270)または、
当館ホームページでご確認ください
※お車でのご来館はご遠慮ください

◆春の庭園開放

3月11日(土)～4月16日(日) 10:00～16:00
本館北側の庭園を公開します。由緒ある5棟の茶室が点在する庭園を散策してみませんか。



◆18年度 夜間開館日・時間延長日のお知らせ

今年度は、4月～9月の土・日・祝日は18時まで、平成18年3月31日(金)と4月から12月の特別展開催期間中の金曜日は20時まで開館いたします(通常の開館時間は9時30分～17時)。

◆18年度 臨時休館日のお知らせ

6月13日(火)は電気設備保守点検のため臨時休館いたします。

◆2006年10月1日 観覧料改定のお知らせ

国立博物館では、2006年10月1日より平常展観覧料等の改定を行うことになりました。国立博物館は2006年度から独立行政法人として第2期中期計画期間に入りますが、自己収入予算(ノルマ)が前年度の6億8000万円に対し、3億6000万円引き上げられ、約10億4000万円となります。今後も文化財の収集・保管・展示・調査研究の事業を継続していく必要があります。さらに施設の耐震対策等の財源も新たに必要となっています。

国立博物館の置かれている状況に鑑み、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2006年10月1日から改定となる観覧料・パスポート料金

東京国立博物館
一般 600円(団体500) 大学生 400円(団体300)
高校生以下と満70歳以上の方は無料
パスポート 一般 4000円 学生 2500円
京都国立博物館・奈良国立博物館
一般 500円(団体400) 大学・高校生 250円(団体200)
中学生以下と満70歳以上の方は無料
九州国立博物館 現行据え置き
※団体は20名以上

東京国立博物館友の会 & パスポート

友の会 年会費 1万円 発行日から1年間有効
特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送などさまざまな特典があります

パスポート 一般 3000円 学生 2000円
 発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でも、お好きな6つの特別展を1回ずつ計6回までご覧いただけます

◆お申し込みは当館の窓口あるいは郵便振替で

友の会

加入者名(振替先) 東京国立博物館友の会
 口座番号 00160-6-406616

金額 1万円

*振替用紙には職業・年齢・性別・ご希望のプレゼント番号(パンフレット、ウェブサイト参照)を楷書でご記入ください

パスポート

加入者名(振替先) 東京国立博物館パスポート
 口座番号 00120-3-665737

金額 一般3000円、学生2000円

*振替用紙には申込区分(一般か学生)、学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入ください

*振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください

*振替手数料はお客様のご負担となります

*郵便振替でのお申込には2週間かかります

◆お問い合わせ

TEL 03-3822-1111(代) 友の会・パスポート担当

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期郵送をご希望の方は、年間(6冊分)1000円の送料・事務費のご負担をお届けします

◆お申し込みは郵便振替で

加入者名(振替先) 東京国立博物館ニュース
 口座番号 00100-2-388101

*振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください

*お申し込みは1年ごととなります。複数年のお申し込みは受けられませんのでご了承ください

*振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください

*振替手数料は申込者のご負担となります

*次号より送付ご希望の場合、締め切りは2006年5月10日です

東京国立博物館利用案内

開館時間 9時30分～17時、3月31日～12月の特別展開催期間中の金曜日は20時まで、4月～9月の土・日・祝・休日は18時まで(入館は閉館の30分前まで)

休館日 毎週月曜日(祝日、休日の場合は翌日)、年末年始(12月28日～1月1日)。ゴールデンウィークおよびお盆期間(8月13日～8月15日)は原則として無休
 2006年6月13日(火)は臨時休館

平常展観覧料金

一般420(210)円、大学生130(70)円

* ()内は20名以上の団体料金

*障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください

*満65歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください

◆カナダ ボワンタリエール モントリオール考古歴史博物館
「日本展」
 5月16日(火)～10月15日(日)



◎埴輪 挂甲の武人
 群馬県太田市飯塚町出土
 古墳時代・6世紀
 埴輪で唯一の国宝。2001年のパリに続いて、アメリカ大陸で初のお目見え

◎土偶
 宮城県大崎市
 恵比須田出土
 縄文時代・前1000年～400年
 ほぼ完形の遮光器土偶で、大きさも遮光器土偶で最大級。特異な造形は、カナダの人々の注目を集めるだろう



ボワンタリエール モントリオール考古歴史博物館では、近年、世界各地の古代文化を紹介する展覧会を毎年一回行っています。その一環として、今回は日本の原始・古代文化を、東京国立博物館の所蔵品を中心に、旧石器時代から古墳時代まで、国宝一件、重要文化財十八件を含む九十三件の優品で紹介することになりました。おもな出品作品に、ナイフ形石器(重文、埼玉)

(望月幹夫)

◆MUSEUM 6000号
 (平成18年2月15日発行)の掲載論文

- ①「ユニバーサル・ミュージアムとしての東京国立博物館」 西岡康宏(当館副館長)
- ②「二〇〇五年十一月 揺れ動く東京国立博物館」 金子啓明(当館事業部長)
- ③「博物館というメディア」 小林牧(当館広報室長)
- ④「東京国立博物館の国際交流——ナショナルセンターとしての役割——」 鬼頭智美(当館国際交流室長)
- ⑤「東京国立博物館のボランティア活動の歩みと今後の展望」 加島勝(当館教育普及室長・ボランティア室長)
- ⑥「博物館環境のリスクアセスメント」 和田浩(当館環境保存室研究員)
- ⑦「ミュージアムに寄せる思い——文化活動の拠点としての役割——」 角井博(当館発着館員・渋谷区立松涛美術館館長)
- ⑧「組織機構変遷一覽」



〈京都国立博物館〉

4月22日(土)～6月4日(日)

特別展覧会「大絵巻展—国宝『源氏物語絵巻』、『鳥獣戯画』など一挙公開—」

〈奈良国立博物館〉

4月15日(土)～5月28日(日)

御遠忌800年記念特別展「大勧進 重源 東大寺の鎌倉復興と新たな美の創出」

〈九州国立博物館〉

開催中～4月2日(日) 開館記念特別展第二弾「中国 美の十字路」

4月29日(土・祝)～6月25日(日) 特別展「うるま 美ら島 琉球」(仮)

2006年4月

東京国立博物館 4月・5月の展示・催し物

2006年5月

1 SAT	「春ははじめにきよし」19:30 法隆寺宝物館エントランスホール*1 時間延長(18:00まで) 13:30 15:00
2 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
3 MON	休館日
4 TUE	「クレッグ・アークハート ピアノ・ソロ ミニ・ライブ」13:00 14:30*2 列品解説「帝冠様式—復興本館の建築スタイルについて」14:00 平成館企画展示室
5 WED	14:30
6 THU	14:30
7 FRI	「天台声明公演」18:30 本館前*3 夜間開館(20:00まで) 15:00
8 SAT	記念講演会「特別講話 回峰行と天台のころ」13:30 平成館大講堂*4 時間延長(18:00まで) 14:30 15:00
9 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 特別公開「国宝・天寿国幀帳と聖徳太子像」最終日
10 MON	休館日
11 TUE	列品解説「公家の太刀・武家の太刀—さまざまな太刀外装—」 14:00 本館14室
12 WED	14:30
13 THU	14:00 14:30
14 FRI	夜間開館(20:00まで)
15 SAT	時間延長(18:00まで) 13:30 14:00 15:00
16 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 春の庭園開放 最終日
17 MON	休館日 「タマーシュ・ヴァルガの世界」19:00 平成館ラウンジ*5
18 TUE	列品解説「世尊寺家の古筆」14:00 本館3室
19 WED	14:30
20 THU	14:00 14:30
21 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:00 15:00
22 SAT	月例講演会「公家の太刀・武家の太刀—さまざまな太刀外装—」13:30 平成館大講堂 時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 15:00
23 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:00 14:30 「親と子のギャラリー たてもの編」最終日
24 MON	休館日
25 TUE	列品解説「法隆寺献納宝物の幀」14:00 法隆寺宝物館第6室
26 WED	14:30
27 THU	14:00 14:30
28 FRI	夜間開館(20:00まで)
29 SAT	みどりの日 時間延長(18:00まで) 14:00 15:00
30 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30

- ★ = ボランティアによる本館ハイライトツアー ……集合場所:本館1階エントランス
□ = ボランティアによる浮世絵版画展示ガイド ……集合場所:本館1階エントランス
▽ = ボランティアによる陶磁エリアガイド ……集合場所:本館1階エントランス
◎ = ボランティアによる彫刻ガイド ……集合場所:本館1階エントランス
● = ボランティアによる樹木ツアー ……集合場所:本館1階エントランス
◇ = ボランティアによる考古展示室ガイド ……集合場所:平成館考古展示室入口
○ = ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド ……集合場所:法隆寺宝物館1階エントランス
☺ = ボランティアによる九条館茶会 ……集合場所:本館1階エントランス
(参加費500円、開始1時間前に本館1階で整理券配布)

1 MON	
2 TUE	
3 WED	憲法記念日 時間延長(18:00まで) 14:30
4 THU	国民の祝日 時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
5 FRI	子どもの日 夜間開館(20:00まで) 15:00
6 SAT	時間延長(18:00まで) 13:30 14:00 15:00
7 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 特別展「最澄と天台の国宝」最終日
8 MON	休館日
9 TUE	
10 WED	14:30
11 THU	14:00 14:00 14:30
12 FRI	
13 SAT	月例講演会 国際博物館の日記念「博物館?それとも動物園?」13:30 平成館大講堂 時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 15:00
14 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
15 MON	休館日
16 TUE	列品解説「日本の博物学 上野公園の130年」14:00 本館16室
17 WED	14:30
18 THU	14:00 14:30
19 FRI	14:00 15:00
20 SAT	テーマ別講演会「江戸時代後期の絵画」第1回 13:30 平成館大講堂*6 時間延長(18:00まで) 13:30 14:00 15:00
21 SUN	時間延長(18:00まで) 12:30、14:00 14:00 14:30
22 MON	休館日
23 TUE	列品解説「清朝碑学派の書」14:00 東洋館第8室
24 WED	14:30
25 THU	14:00 14:30
26 FRI	
27 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 15:00
28 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:00 14:30
29 MON	休館日
30 TUE	列品解説「華山と文晁の写実」14:00 本館8室
31 WED	14:30

- = ボランティアによる庭園茶室ツアー ……集合場所:本館1階エントランス
(開始1時間前に本館1階で整理券配布 日程によっては全てのお茶室をご案内できない場合があります)
★ = ボランティアによる英語ガイド(本館ハイライト) ……集合場所:本館1階エントランス
*1,5は有料イベントです(本誌14ページをご覧ください) *2は無料イベントです
*3 詳細は本誌5ページをご覧ください *4 事前申込制(前号3ページをご覧ください)
*6 詳細は本誌7ページをご覧ください
※上記の予定は予告なく変更になることがあります。当日の予定はインフォメーションカウンターでご確認ください